

IV-40

都市のイメージ構造に関する研究—室蘭市・登別市・伊達市の比較—

室蘭工業大学	学生会員 佐々木琢磨
専修大学北海道短期大学	正会員 榎谷有三
島田建設(株)	正会員 安藤輝夫
日本工学院北海道専門学校	正会員 石井憲一
室蘭工業大学	フェロー 斎藤和夫

1.はじめに

経済の高度成長を経て物質的に豊かになり、次に心の豊かさが求められるようになるのに伴って、都市・地域計画においても、単に機能面を重視したまちづくりよりもその地域地域にあった個性豊かなまちづくりや魅力あるまちづくりが重視されるようになってきた。個性豊かなまちづくりや魅力あるまちづくりにおいて都市のアイデンティティを確立することは重要であるが、そのために都市のイメージを把握し、その背景に何があるのかを探る必要がある。

本研究では、都市のイメージを探るためにアンケート調査を行い、その背景に都市を構成している物的または文化的要素が関わっていることに注目し、イメージの把握とイメージと都市構成地物との関連を明らかにすることを目的としている。

2.アンケート調査

(1) 調査対象地域

本研究では胆振地方の西部都市圏を形成している室蘭市、登別市、伊達市を対象としている。室蘭市は工業都市、登別市は観光都市、伊達市は北の湘南と呼ばれる温暖な気候の都市である。

(2) アンケート調査内容

アンケート調査の方法は人口の1%に対して調査することを目標とし、住宅地図から無作為に選出した家庭を訪問し2、3日の留置式アンケートを行った。以下にアンケートの内容を示す。

①属性の調査

アンケート被験者の居住地区、性別、年齢、職種、居住年数の調査するものである。

②都市の総合評価

都市に対する総合的な意識の評価項目として、まず「好き」-「嫌い」を「そう思う」「まあそう思う」「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「そう思わない」と5段階評価してもらい、次に「豊かである」かそうでないかを同じく5段階評価してもらう。

③イメージ評価

日常生活の中で多様な価値観・潜在意識によって心的環境を創りあげているものを都市のイメージとして、視覚・構造的要素、雰囲気・質的要素、文化的要素の3つに対応する言語尺度である形容詞23項目を設定し、5段階評価してもらう。

④都市構成地物の調査

都市のイメージに大きな影響を与えると思われる都市構成地物を自然、生活・余暇、教育・文化、伝統・歴史、経済、交通などの分野から、室蘭市は95項目、登別市は65項目、伊達市は88項目設定し、それぞれの都市のイメージに重要だと思われるものを5項目選択してもらう。

3.集計

(1) 回収状況

アンケート調査の実施と回収状況を表-1に示す。いずれの都市に対しても有効回収部数が人口の1%を上回ることができた。

Analyses on the Image Structure of City and Their Relation to Physical Characteristics in Muroran City, Noboribetu City and Date City.

by Takuma SASAKI, Yuzo MASUYA, Teruo ANDO, Kenichi ISHII and Kazuo SAITO.

調査対象	人口 (人)	有効回収部数	配布に対する 有効回収率(%)	実施日
室蘭市	109,542	1,105	78.1	H7 10/20~11/2
登別市	56,857	592	90.8	H8 12/2~12/10
伊達市	35,145	398	89.6	H9 10/13~10/25

表-1 3市のアンケートの回収状況

(2) 総合評価

アンケートにおいて「好き」-「嫌い」の5段階評価、および「豊かさ」の5段階評価を集計し「そう思う」~「そう思わない」に対して、「2点」~「-2点」を与えてその平均をとった。その結果を図-1に示す。

この結果から、「好き」-「嫌い」に関しては3市ともプラスの評価になっていることがわかる。また、室蘭市、登別市、伊達市の順に得点が高くなっていくが、それは総合評価以下に続くイメージ評価の点数の高さに比例していることがわかる。

また、「豊かさ」に関しては伊達市がプラスの評価、登別市、室蘭市はともにマイナスの評価になっている。室蘭市は、はっきりとマイナスの評価になっているが伊達市、登別市は0付近の評価なので「豊かさ」に関しては、両市ともに「どちらともいえない」という評価になっているが、「豊かさ」という項目は「好き」-「嫌い」という項目に対してイメージがわきにくいこともあり、このようなあいまいな結果になった可能性もある。

(3) イメージ評価

23項目の形容詞についても総合評価と同様に点数化しその結果を総合評価の点数とあわせてイメージプロフィールとして図-1に示す。

この結果から、全体的に似たような折れ線になっていることがわかる。3市とも地理的に近接しており、1つの地域としてとらえると、この地域はイメージ的にこのような特徴があるといえる。項目別に見ると、プラスのイメージとして「美しい」「どかな」「自然な」という項目が挙げられたのに対して、マイナスのイメージとして「古い」「野暮ったい」「停滞的な」「寂しい」という項目が挙げられている。これは海や山といった自然が評価されている

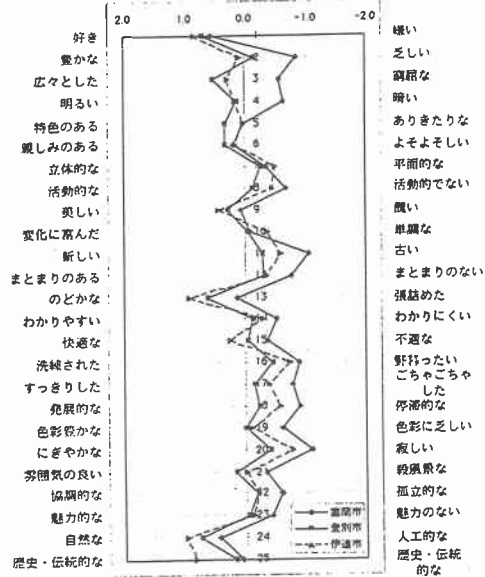


図-1 3市のイメージプロフィール

るのに対して、居住地域である街がマイナス評価されており、地方都市の特徴が浮き彫りにされる結果となった。

4. イメージ構造の分析

(1) イメージ構造

上記のイメージプロフィールからは部分的な特徴を見ることができたが、都市の全体的なイメージをとらえるために因子分析を行いイメージ評価の23項目の形容詞をいくつかの因子に集約する。因子分析の結果、得られた各形容詞項目の因子負荷量を室蘭市を表-2、登別市を表-3、伊達市を表-4に示す。また、表-2、3、4の各因子に含まれる形容詞項目を因子負荷量などを参考に因子の解釈を行った結果、室蘭市は4つの因子、登別市は3つの因子、伊達市は2つの因子が抽出された。

まず、室蘭市は第1因子は「活動性」、第2因子は「視覚・変化性」、第3因子は「アメニティ性」、第4因子は「雰囲気性」と解釈され、室蘭市のイメージはこれら4つの因子で89%説明できるものと考えられる。

表－2 因子分析の結果（室蘭市）

No	イメージ項目	因子1	因子2	因子3	因子4
14	洗練された	0.7025	0.1703	0.2436	0.2045
9	新しい	0.6996	0.2568	0.1521	0.009
6	活動的な	0.6572	0.3705	0.0104	0.2286
16	発展的な	0.6428	0.3268	0.0777	0.1605
18	にぎやかな	0.6209	0.2246	0.0538	0.3382
2	明るい	0.6039	0.2646	0.2828	0.2085
10	まとまりのある	0.5885	0.1261	0.248	0.3318
15	すっきりした	0.575	0.17	0.3852	0.1082
1	広々とした	0.4182	0.1603	0.3521	0.0094
8	変化に富んだ	0.2336	0.6668	0.1297	0.0105
7	美しい	0.2054	0.6219	0.3674	-0.0198
5	立体的な	0.3215	0.6178	0.1785	0.0966
3	特色のある	0.2563	0.6128	0.0548	0.2221
23	歴史・伝統的な	0.1162	0.4555	0.2667	0.3724
17	色彩豊かな	0.3956	0.4544	0.2593	0.1373
21	魅力的な	0.3705	0.4518	0.2756	0.3905
4	親しみのある	0.2695	0.4126	0.3882	0.2485
22	自然な	0.0134	0.5833	0.5932	0.2128
11	のどかな	0.122	0.1313	0.6736	0.0983
13	快適な	0.4717	0.2526	0.5834	0.2068
12	わかりやすい	0.4377	0.0973	0.442	0.1363
19	雰囲気の良い	0.3845	0.3195	0.5219	0.6229
20	協調的な	0.4268	0.1343	0.193	0.5016
固有値		10.079	1.8826	1.4507	1.0405
寄与率 (%)		61.7	11.5	8.9	6.4
累積寄与率 (%)		61.7	73.3	82.1	88.5



図－2 室蘭市のイメージ構造図

表－3 因子分析の結果（登別市）

No	イメージ項目	因子1	因子2	因子3
8	変化に富んだ	0.709	0.206	0.070
6	活動的な	0.697	0.269	0.246
9	新しい	0.632	0.081	0.362
16	発展的な	0.626	0.177	0.423
5	立体的な	0.608	0.270	0.224
18	にぎやかな	0.607	0.150	0.395
21	魅力のある	0.601	0.410	0.254
10	まとまりのある	0.517	0.213	0.480
20	協調的な	0.489	0.238	0.410
23	歴史・伝統的な	0.421	0.374	0.178
22	自然な	0.179	0.709	0.145
11	のどかな	0.026	0.616	0.267
4	親しみのある	0.425	0.537	0.254
1	広々とした	0.234	0.526	0.227
3	特色のある	0.508	0.508	0.379
7	美しい	0.468	0.470	0.207
17	色彩豊かな	0.477	0.460	0.310
2	明るい	0.490	0.419	0.332
19	雰囲気の良い	0.396	0.490	0.857
15	すっきりした	0.181	0.389	0.649
14	洗練された	0.483	0.165	0.585
12	わかりやすい	0.209	0.376	0.574
13	快適な	0.343	0.393	0.487
固有値		10.276	1.062	0.663
寄与率 (%)		76.9	7.9	5.0
累積寄与率 (%)		76.9	84.8	89.8



図－3 登別市のイメージ構造図

次に、登別市は第1因子は「活動性」、第2因子は「自然性」、第3因子は「雰囲気性」と解釈され、登別市のイメージはこれら3つの因子で90%説明でき、同様に、伊達市は第1因子は「都市機能性」、第2因子は「自然性」と解釈され、伊達市のイメージはこれら2つの因子で83%説明できると考えられる。

室蘭市、登別市、伊達市のイメージ構造を図-2、3、4に示す。因子数について3市を比較すると、人口が多いほど因子が多くなっており、十人十色とい

われるように人口が多くなるとそれだけ住民の意識が分散し、人口が数万人の規模で考えると、人口が増加するにしたがってイメージ構造も複雑化すると考えられる。

各市とも同じ様な形容詞項目が含まれた因子において、因子の解釈が若干違ってくるのは、因子数の違いや各市の様子や状況、都市構成地物との関連分析なども含めて総合的に因子の解釈を行ったためである。

表-4 因子分析結果（伊達市）

No.	イメージ項目	因子1	因子2
9	新しい	0.760	0.044
14	洗練された	0.741	0.216
6	活動的な	0.708	0.264
16	発展的な	0.708	0.159
5	立体的な	0.648	0.214
8	変化に富んだ	0.611	0.204
15	すっきりした	0.599	0.412
18	にぎやかな	0.569	0.186
10	まとまりのある	0.560	0.359
21	魅力的な	0.537	0.482
17	色彩豊かな	0.459	0.412
3	特色のある	0.414	0.320
12	わかりやすい	0.392	0.337
11	のどかな	-0.012	0.650
22	自然な	-0.004	0.615
19	雰囲気の良い	0.434	0.566
4	親しみのある	0.381	0.546
2	明るい	0.480	0.531
13	快適な	0.387	0.521
7	美しい	0.420	0.517
1	広々とした	0.213	0.475
20	協調的な	0.380	0.432
23	歴史・伝統的な	0.305	0.408
固有値		8.615	1.301
寄与率 (%)		72.5	10.9
累積寄与率 (%)		72.5	83.4

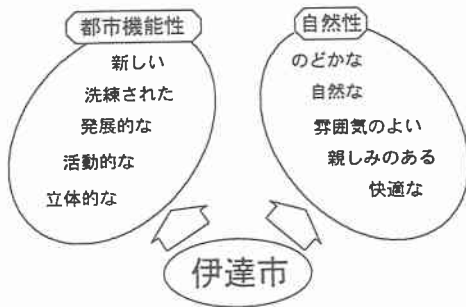


図-4 伊達市のイメージ構造図

(2) イメージ特性

各市の抽出された因子について属性別のイメージの相違を把握するために、属性ごとの平均因子得点を算出し規定因子上に位置付ける。以下に、属性別に各都市のイメージを見たときに特徴的なものを挙げ、図とともに示す。室蘭市の居住年数別のイメージ特性を図-5に、登別市の年齢別のイメージ特性を図-6に、伊達市の職業別のイメージ特性を図-7に示す。

室蘭市において居住年数の短い層は雰囲気性とア

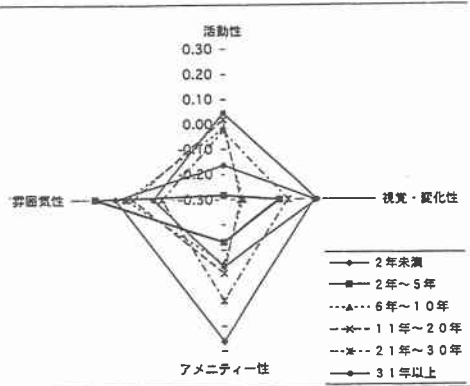


図-5 居住年数別の室蘭市のイメージ

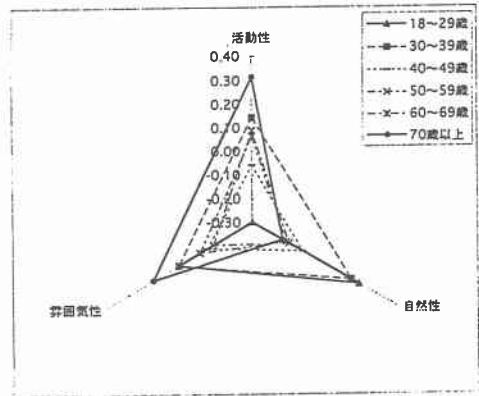


図-6 年齢別の登別市のイメージ

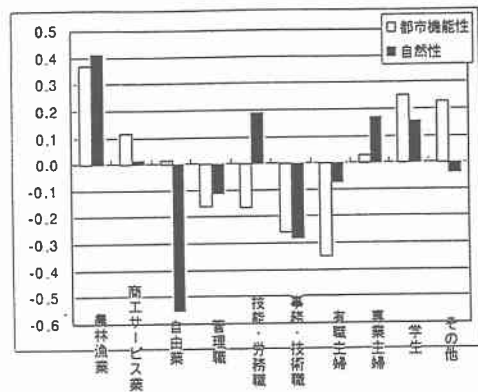


図-7 職業別の伊達市のイメージ

メニティー性を強く感じている。居住年数の長い層は活動性と視覚・変化性を強く感じていることがわかる。また、特徴的なのは居住年数が2~5年の層で、

活動性とアメニティ性に対して極めてマイナスのイメージを持っていることである。これは、地方中核都市に対する見方として、居住年数が2~5年のころが、活動性/自然性(アメニティ性)の両極に対して否定的なイメージを持つ傾向にあることが考察できる。

登別市において年齢が高くなるほど活動性のイメージが高く、一方年齢が若いほど自然性のイメージが高いことがわかる。また、雰囲気性においては活動性、自然性のどちらかのイメージが良ければ、雰囲気性のイメージも良くなる傾向にあることがわかる。

伊達市においては自由業、管理職、技能・労務職、事務・技術職、有職主婦は全体的にマイナスのイメージを抱いており、農林漁業、商工サービス業、専業主婦はプラスのイメージを抱いていることから、デスクワークに関わる人々が全体的にマイナスのイメージを抱く傾向にあることがわかる。

5. イメージと都市構成地物との関連

冒頭でも触れたが、住民がその都市のイメージを抱く背景には、その都市を構成している都市構成地物が深く関わってくると考えられることからイメージと都市構成地物の関連分析を行う。イメージ評価のデータと印象に残る都市構成地物のデータを数量化Ⅲ類によって形容詞項目と都市構成地物に重み(カテゴリウエイト)をつけて図にプロットし、形容詞項目に基づいて都市構成地物ごと因子別にグルーピングした。そのため、ここでは図の軸の解釈は行わない。室蘭市、登別市、伊達市のイメージと都市構成地物の関連図を図-8、9、10に示す。この図から、各都市のイメージ構造に関連する都市構成地物が理解できる。

図-8において室蘭市の場合、第1象限付近のグループは「活動性」のグループと解釈できる。第2~3象限のグループは「視覚・変化性」、第3~4象限のグループは「アメニティ性」のグループと解釈できる。また、雰囲気性のグループは形容詞項目からはグルーピングできず、アメニティ性のグループに含まれたと考えられる。活動性に関連

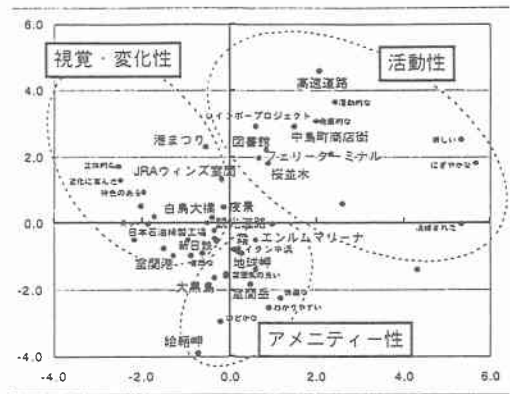


図-8 イメージと都市構成地物の関連 (室蘭市)

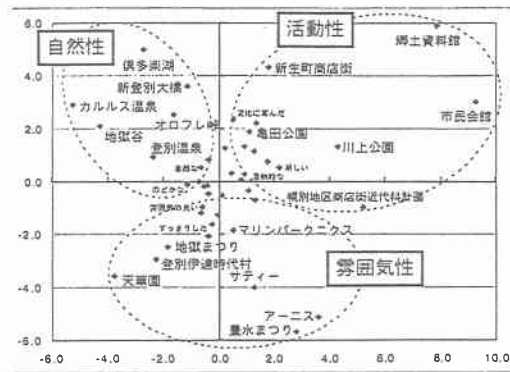


図-9 イメージと都市構成地物の関連 (登別市)

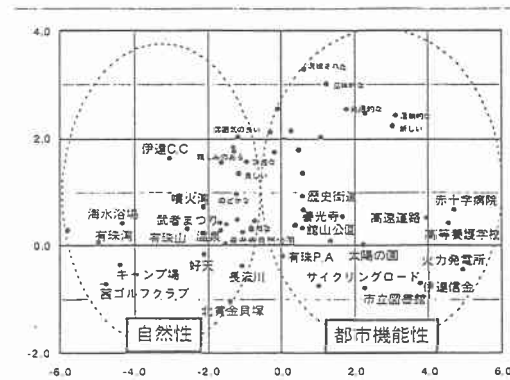


図-10 イメージと都市構成地物の関連 (伊達市)

する都市構成地物は商店街、交通基盤、プロジェクトなどが、視覚・変化性に関連しているのが工場群、

夜景、建設中の白鳥大橋などが、アメニティー性に関連してくるのがイタンキ浜、岬、山、イルカウォッチングなどである。

図-9において登別市の場合、第1象限付近が「活動性」、第2象限付近が「自然性」、第3～4象限付近が「雰囲気性」のグループと解釈できる。また、活動性に関連する都市構成地物は商店街、都市基幹公園、プロジェクトなどが、自然性には温泉、景観、などが、雰囲気性には商店街の核をなしている大型店舗、イベント、テーマパークなどが関わっている。

図-10において伊達市の場合、第1、4象限付近のグループは「都市機能性」のグループ、第2、4象限のグループは「自然性」のグループと解釈できる。都市機能性に関連する都市構成地物は街なかになり街を形成する建物や公園などが、自然性に関連しているのが海、川、山など、まさに自然に関連する構成地物がグルーピングされてきた。

各都市の図を比較すると活動的なイメージのグループは第1事象付近に、自然的なイメージのグループがプロットされているが、これは図-1のイメージプロフィールからわかるようにそれぞれの都市の評価が似ているため、カテゴリウエイトが似たような数値になった結果とみられる。また、室蘭市と登別市の活動性の内容を比較すると、両市ともに市民活動の場をイメージすると考えられ、さらに登別市の場合、都市基幹公園が含まれていることから、レクリエーション的な活動もイメージされると考えられる。そして、登別市と伊達市の自然性の内容を比較すると、登別市は山に関連するイメージが強い一方、伊達市は海や川などを含めた、自然全体がイメージされるようである。

6.まとめ

以上、本研究では室蘭市、登別市、伊達市を対象として、各都市のイメージを把握するためにイメージを構造化し、イメージの背景にある都市構成地物との関連分析を行い、都市のイメージを把握することを試みた。また、各都市のイメージを比較してその相違を探った。その結果を以下にまとめる。

・室蘭市のイメージ構造は「活動性」「視覚・変化

性」「アメニティー性」「雰囲気性」の4次元のイメージ特性で表される。

- ・登別市のイメージ特性は「活動性」「自然性」「雰囲気性」の3次元のイメージ特性で表される。
 - ・伊達市のイメージ特性は「都市機能性」「自然性」の2次元のイメージ特性で表される。
 - ・人口が増えるとイメージが分散する傾向がある。
 - ・活動的なイメージと自然に関するイメージは西胆振地方の共通のイメージである。
 - ・各都市のイメージに関する都市構成地物を分類し、各都市の共通のイメージを比較することにより、その内容に若干の相違を見つけることができた。
- 今後の課題はさらに多くの都市のイメージ構造を分析し、比較することによって、都市のイメージを体系的に把握していくことと、これらの結果を都市・地域の環境づくりに反映させる方策を検討することである。

参考文献

1. K.Lynch (丹下健三訳)：都市のイメージ、岩波書店、1968.
2. 志水英樹：街のイメージ構造、技報堂、1979.
3. 石見・田中：地域イメージとまちづくり、技報堂、1992.
4. 岩下豊彦：SD法によるイメージの測定、川島書店、1983.
5. 尾藤章雄：都市の地域イメージ、大明堂発行、1996.
6. 朝日新聞社編：民力 '97、朝日新聞社、1997.
7. 石崎裕幸・斎藤和夫・田村亨・榎谷有三：地域のイメージ構造に関する分析～室蘭市の事例～、土木学会北海道支部 論文報告集 第52(B)、1996.
8. 斎藤和夫・石崎裕幸・田村亨・榎谷有三：都市のイメージ構造と地域特性の関係に関する研究、土木計画学研究・論文集 No.14、1997.